

(仮訳)

プレス・リリース

2020年9月25日

バーゼル銀行監督委員会は、グローバルなシステム上重要な銀行(G-SIB)の年次選定結果を承認し、金融危機後の規制改革の影響評価に関する作業計画を更新

- バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、新型コロナウイルス感染症の銀行システムに対するリスクについて議論し、資本及び流動性バッファの利用の重要性を改めて表明。
- グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIB）の年次選定結果を承認。
- 新型コロナウイルス感染症による危機の教訓を取り入れるため、金融危機後の規制改革の影響評価にかかる作業計画を更新。

バーゼル委は、2020年9月14日、18日及び25日に会議を開催し、新型コロナウイルス感染症のグローバルな銀行システムに対するリスクと関連する脆弱性について状況把握（ストックテイク）を行うとともに、一連の政策及び監督上の取組みについて議論した。

世界的な金融の安定性の見通しは、不確実な状況が続いている。銀行システムに対するリスクを高めうる要素としては、新型コロナウイルスの感染状況と抑制措置の進展、回復期間の長期化、支援措置の解除及び失効が含まれる。また、リモート勤務の増加や、銀行によるテクノロジーやサードパーティのサービス提供者への依存の高まりを考慮すると、銀行システムのオペレーショナル・レジリエンスは引き続き試されていくことになる。

こうしたもとで、銀行システムは、より強靱な状態で新型コロナウイルス感染症の危機に直面することとなった。バーゼルⅢによる金融危機後の規制改革の効果もあり、銀行の資本及び流動性のリソースは、2007-09年の世界金融危機時よりも潤沢であり、銀行をより強靱なものとしている。バーゼル委は現在、銀行のオペレーショナル・レジリエンスを強化するための一連の諸原則について市中協議を行っている。バーゼル委メンバーは、中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループが本年前半に承認した見直

し後の実施時期に基づき、すべての残されたバーゼルⅢ基準が完全、適時、かつ整合的に実施されるべきものである点を全員一致で再確認した。

バーゼル委は、銀行が金融面のショックを吸収し、信用力の高い家計や企業への貸出を通じて実体経済を支援するために、この危機下においてバーゼルⅢの資本及び流動性バッファを活用すべきという、以前に発出した指針を改めて表明する。監督当局は、経済や市場の状況、個々の銀行が置かれた環境を考慮し、バッファを再建させるために十分な時間を許容する。

バーゼル委は、新型コロナウイルス感染症によるグローバルな銀行システムに対するリスクを引き続きモニターし、必要であれば追加的な措置をとる。バーゼル委はまた、分野横断的な金融上の論点について、金融安定理事会（FSB）やグローバルな基準設定主体と連携して対応していく。

新型コロナウイルス感染症の危機に関する議論に加えて、バーゼル委は G-SIB の年次選定結果を承認した。この結果は FSB に提出され、後日、FSB は 2020 年の G-SIB リストを公表する。

バーゼル委はまた、金融危機後の規制改革の影響評価に関する更新された作業計画を承認した。この作業計画は、新型コロナウイルス感染症による危機の教訓を取り入れたものとなる。バーゼル委は、以下の影響評価を行うために様々な実証分析を行う。

- 金融危機後の規制改革がどの程度所期の目的を達成したか
- バーゼルⅢの規制改革とその他の金融危機後の規制改革の相互作用
- 規制枠組みで捕捉されない点や意図せざる重大な影響が存在しているかどうか

バーゼル委は、作業を進めていくにあたり、学者、アナリスト、銀行、市場参加者や一般市民を含む、広範にわたる利害関係者の見解やインプットを引き続き求めていく。